

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：つづきルーテル保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：柳澤 ナオミ	定員（利用人数）：120名（121名）	
所在地：〒224-0015	横浜市都筑区牛久保西2-18-1	
TEL：045-910-6686	ホームページ：http://ikusosu.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2000年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人イクソス会		
職員数	常勤職員：23名	非常勤職員：27名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士（幼稚園教諭免許取得者） 31名（17名）	看護師 1名
	栄養士 4名	管理栄養士 1名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

●児童福祉法とキリスト教に基づき、保育に欠けるすべての子どもにとって、最もふさわしい生活の場を保障し、愛護するとともに、最善の利益を守り、保護者と共にその福祉を積極的に増進する。

## &lt;基本方針&gt;

●保育に係わる専門職同士が協力し合い、養護と教育の一体的な展開を図り保育の質を高め、充実させる。

●子どもの主体的な発達要求に応答する環境を整え、自ら興味・関心を持って環境に関り、チャレンジしたことへの充実感や満足感を味わい、年齢なりの心情、意欲、態度を養う。

●一人ひとりの子どもがくつろいで共に過ごして、心身の疲れが癒されるようにする。

●子どもの24時間生活を視野に入れ、家庭との連絡を密にして積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを築き、保護者の共感を得て養育力の向上を支援しつつエンパワメントを引き出していく。

●子どもが育つ道筋や生涯教育を見据えた長期的な視野をもって後伸びの力をつけ小学校と情報交換したり交流を密にして積極的に連携していく。

## &lt;保育理念&gt; ～イクソス会が大切にしていること～

●私たちは、モンテッソーリ教育とキリスト教教育を軸にした保育を行っています。  
一人ひとりの園児と向き合い 子どもたちの自主性・個性を尊重します。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

●つづきルーテル保育園の運営法人は、社会福祉法人イクソス会（以下、法人という）であり、法人は横浜市内に3園、川崎市内に2園を運営し、つづきルーテル保育園は平成12年（2000年）4月に開所されました。つづきルーテル保育園の保育の特徴は、ユネスコが提唱した「生涯教育」を念頭に入れて、『誕生から学齢期までの一貫保育』を意図しています。原則的には0歳児から同じような園児数で年齢構成を行い、5～6年の一貫保育を心がけています。さらに、児童憲章とキリスト教精神を基にして、保育所保育指針、モンテッソーリ教育（乳児も含む）を併せて、つづきルーテル保育園ならではの保育を進めています。また、次世代育成を中心にした子育て支援（家庭支援）にも取り組んでいます。日常保育では、子どもたちが人間として必要な基本的な生活習慣（挨拶、食事、排泄、整理整頓、清潔、他者への思いやり等）が年齢に応じることができるよう支援を行い、子ども一人の健やかな成長・発達に向けて適切な援助が行われています。園が目標とする子どもの姿をして、「他人に迷惑をかけずに、いたわりの心を持つ園児に」、「互いに協力できる園児に」、「個性を大事に健やかに成長する園児に」、「明るく素直で礼儀正しい園児に」を掲げ、目標を目指して保育に当たっています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 12月 11日（契約日） ～ 2020年 6月 3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

##### 1. 【保育の柱】

●つづきルーテル保育園の特徴として、キリスト教教育、モンテッソーリ教育を柱として保育の展開を図っています。加えて、国際の時間、絵画の時間、体操の時間、リトミックを実施しています。キリスト教教育は、園運営の原点であり保育を实践する上での指針であり、0歳児からキリスト教保育が始まります。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。」（新約聖書マタイによる福音書7章12節）イエス・キリストの教えを、0歳児も食事の前に祈り、1歳児はおやつの前に座り、一人ひとり名前を呼び、讃美歌を歌い、祈ります。2歳児はサークル（ミニ礼拝形式）で讃美歌、祈りを捧げ、少しずつ段階を踏みながらレベルアップを図り、3歳～5歳児の礼拝へと臨んでいます。職員は、今日1日子どもたちに実りある保育が行えることを祈り、キリスト教の教えに沿って保育が行われていきます。もう一つの柱であるモンテッソーリ教育は、「全ての子どもには自分を伸ばす力（自己教育力）を持っている」ことを基本にして、カリキュラムに沿い、用意された各種教具に触れ、子どもの持つ自発的で創造的な関心を段階的に引き出し、これらの教具集中を通して秩序ある自己育成を促し、子どもの成長を育んでいます。

##### 2. 【モンテッソーリ教育の推進】

●つづきルーテル保育園では、モンテッソーリ教育について、「子どもから平和がくるように」という思いを常に持ち、子どもたちの環境として特に、小さいクラスにおいては「職員が『教具』となり動く」ことを心がけ、モンテッソーリ教育を教育的に捉えるのではなく、子ども自らが成長していく力を支援しています。調査では3～5歳児縦割りクラスを見学させていただきました。モンテッソーリ教育は幼児の保育室を

1つに開放して行い、保育室の壁際には教具棚が整備され、数個のテーブルによりお仕事のスペースが設けられています。子どもたちは、思い思いのスペースでそれぞれがお仕事を行います。お仕事では、中央に穴が開いた台形・長方形の平版に釘を金槌で打ち付けるお仕事や、カラフルな三角錐を組み合わせてウルトラマンを作るお仕事、模様に切り抜かれた数字のペースをパズルのように型盤にはめ込むお仕事、アイロンビーズで雪の結晶やリース飾りを作るお仕事、絵葉書を描いてポストに投函するお仕事等、実生活と密接に関連する活動から自立に向けた日常生活の練習や身に付くよう工夫をして楽しみながら学びを提供しています。4歳児の子どもが切手のお仕事をしており、見ていると1円から千円までの切手を並べ、4桁の計算を行っていました。子ども自らが興味、数の面白みへとつながっています。

◇改善を求められる点

1. 【次期幹部職員の育成について】

●保育サービスは、過剰すぎるほどに需要のある現在、施設やサービスの内容も従来までの保育とは異なる全く新しい形態として登場しており、保育関連の求人数はこれまで類をみない程に急増してきています。少子化という1つの現象の解決のためには、子どもに対してのケアだけでなくその保護者等へのサービス提供や、教育システムの充実といった別の側面からのアプローチが求められているということにもなります。職員の人材確保・採用については、つづきルーテル保育園のみではなく、法人系系列園全体としても採用・定着等に苦慮し、職員動向については保育園間の異動等により法人全体での主任クラスが手薄になることを鑑みます。職員の補充は急務ですが、全園の体制を維持するためには園長の存在は重要であり、主任クラスからの昇格を考えて実施すると、実務の核である主任が不足する体制にあります。つづきルーテル保育園に関しては、昨年、最低職員数で保育に当たらざるを得ない状況でしたが、今年度は安定した保育を実施できています。さらに、キャリアアップの制度を最大限有効活用し、早期に次期幹部職員の育成に努めていかれることを期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： つづきルーテル保育園

施設長： 柳澤 ナオミ

<評価に取り組んだ感想>

今回は3度目という事もあって、何を見られのだろうという変な緊張感はありませんでした。普段の様子で臨めたことは良かったと思います。

新型コロナウイルスの影響が出始めている中での受審、それに加えて年度末のバタバタとした雰囲気の中と言うのも気になりました。

受審してから諸々の結果が出るまでに時間がかかったので、あの時はどうだったかな？と記憶を呼び覚ます感じになってしまった事も残念でした。（新型コロナウイルスの影響で今が3月とは全く違う状況になってしまっているのです。）

<評価後取り組んだ事として>

1. 状況がガラリと変わってしまい、すべてが自粛になってしまい、これからどうなるのかが全く見えない、読めない状況です。以前のような保育は臨めないだろうという事は言えるので、当園として何を大切にしていけるのか、受審の結果を踏まえて改めて考えていかなければならないと強く思いました。

2. 柱とするキリスト教保育、モンテッソーリ教育を念頭に押しずにかねばならないなと感じました。

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり